

会員の広場



「路傍の草」の挑戦

武田勇蔵(東京)

秋田県大館市と聞いて、忠犬ハチ公の生まれた所、きりたんぼ鍋が名物と思えば、私に浮かぶ方はどのくらいらしいらっしゃるだろうか。私は高校までその地で過ごした。周りはほとんどが農業従事者で、漫然と生きていくことに疑問を感じることもすらくなく、私は憧れの車を毎日、目にする整備士になる夢を描いていた。しかし、その夢は親の薦める商業高校進学で早くも潰れた。こ

れが、現在までの会計士人生においてレールに乗った瞬間とは、まったく気づきもしないスタートだった。高校2年の時に「君たちも頑張れば税理士にはなれるが、公認会計士は無理」と慕っていた簿記の教師に言われ、初めて公認会計士という言葉に耳にした。「無理」という言葉だけが心の中に反芻され、「なれないって。ではなつてやろう」と訳もわからず決心し、本屋に乗り込み「公認会計士になる方法」を見つけ購入。大学進学が不可欠ということで、これがまずは乗り越えなければならぬ大きな「山」になった。

受験科目に簿記のある大学を選び受験。なんとか東洋大学に現役で合格できた。普通高校から進学してきた仲間のようにセンスがないと悩み、諦めて田舎に帰ろうかと何度も思ったが、高校の恩師の「雑草のごとく強く生きろ」という言葉を思い出し頑張り続けた。だが大学3年の春に日商簿記一級合格に漕ぎ着け、二山目を越えたように錯覚。麻雀にはまり、私を見かね

りから多くの花々が我が家を飾り、道を行き交う人々が足を止めてくれるようになった。最近では嗜好が雪割草やえびねのように落ち着いた花に移ってきている。植物を育てていて思うのは、人や仕事と同様に、よく観察し出すぎないことが大切なのではないかということだ。よかれと思いい手をかけすぎるのは良くないし、それぞれに環境・立場をよく理解する心のゆとりを持つことを忘れてはならないようだ。

中規模の監査法人に勤務して30数年になる。監査法人を取り巻く環境は年々厳しくなり、特に会計の国際化が待ったなしの状況だと痛感している。経済倶楽部での有意義な講話を糧に、自主性と自律性を重んじるわれわれの組織が、互いの個性を潰すことなくかつ協調性も失わず成長していけるよう促していきたい。母校で行っている講義においても、公認会計士が一人でも多くの学生に魅力ある職業と認識されるよう、今後とも努力していく所存だ。

た先輩に「いつまでもやるのか」と問われ質され、とっさに「勉強します」と答え、計らずもギアチェンジをした。ただ、麻雀に費やした時間も「山」を登るには必要だったと、今では思える。その後は勉強に全力投球して在学中に会計士二次試験に合格し、3年後には晴れて公認会計士となることができた。

奮起すること、諦めずトライすること、諸先輩のアドバイスを心に留めること、努力すること、どんなことにも無駄なことはないこと——それぞれが少し苦しい経験をした私の会計人生の教訓だ。

時を重ねて現在は草花を眺めたり、いじったりするのも楽しみな歳になった。時間に余裕の持てた週末には、妻と一緒に園芸店に花を見に出かける。ここ数年は東京ドームで開催される世界らん展に足を運んでいる。会場で購入したカトレアの栽培はなかなか成果が得られていないが、もっとも早春を飾るクリスマスローズは今では20数鉢に増えた。つるバラは昨年あた